第3回支部長会議・平成29年度 学校保健講習会及び
薬物乱用防止講習会 報告千葉県学校薬剤師会
常任委員 並木佳久

2月25日(日)春寒の中、第3回支部長会議が千葉県学校薬剤師会会議室にて開催され、新規学校薬剤師確保の件、定期検査時の問題点などについて活気のある討議が行われた。今年4月より学校環境衛生基準が改正されると報告があり、6月3日(日)に開催される「千葉県学校薬剤師会総会及び研修会」にて、その説明会が開催されることとなった。

支部長会議に引き続き、午後より学校保健講習会及び薬物乱用防止講習会が約130名を超える先生を迎え開催された。

まず学校保健講習会として、アース製薬株式会社マーケティング総合企画本部管理薬剤師 日向弘美先生より「学校における害虫対策について」ご講演を頂いた。

害虫対策は、学校環境衛生基準(第3 学校の清潔、ネズミ、衛生害虫等及び教室等の備品の管理に係る学校環境衛生基準)で定められており、検査は毎学年1回実施しなければならない。季節や環境条件次第で繁殖するものが多いことから、対象生物の生活史、習性と良く知った上で検査時期、検査事項を決めて行う必要がある。

アース製薬では、昨年10月末から、「殺虫剤」と呼んできたカテゴリーを「虫ケア用品」に変更したとのことであった。「虫ケア用品」とは、ハエ、蚊、ゴキブリ、ダニ、クモなどの害虫を駆除する製品であり、そのなかでも「家庭用虫ケア用品」とよばれる製品は、薬局やスーパーなどで簡単に手に入れることが可能である。そのため私たちの生活において身近であり、家の中やその周辺にいる害虫を駆除する際、頻繁に使用される傾向にある。

駆除しようとする害虫により、「衛生害虫用」・「不快害虫用」・「園芸害虫用」と分類されている。

「衛生害虫」とは、感染症の原因である病原体を運び、アレルギー疾患を引き起こすことにより、私たちの健康を脅かす害虫として薬機法で定められた害虫<ハエ、蚊、ゴキブリ、ノミ、トコジラミ(ナンキンムシ)、イエダニ、屋内塵性ダニ類(ヒョウヒダニ、コナダニなど)、シラミ、マダニ、ツツガムシ>が該当する。衛生害虫は薬機法の規定による医薬品、防除用医薬部外品でしか駆除が行えない。

一方「不快害虫」とは、衛生害虫、園芸害虫以外の害虫で、多くの人が不快感を持つ害虫や、人を咬んだり刺したりして害を与える衛生害虫以外の害虫(アリ、ハチ、ムカデ、ダンゴムシ、ワラジムシ、カメムシ、クモなど)が該当し、雑貨扱いの不快害虫用での駆除が出来るとのことであった。「家庭用虫ケア用品」は、専門業者が使う製品ではなく、一般の人が使う製品だからこそ、その効果もさることながら、使い方が簡単で、安全性が高くなくてはならない。

実際の学校現場で我々学校薬剤師が、害虫駆除を行うことは少ないと思われる。本日聴講した知識にて、学校からの相談時に適切な指導を行えるのではないかと思う。

次に薬物乱用防止教室講習会として、公益財団法人日本学校保健会事務局顧問 並木茂夫先生より「今、学校に求められている未成年者飲酒防止教育」についてご講演を頂いた。

近年、我が国の青少年の抱える健康課題が多様化、深刻化する中で、未成年者による喫煙や飲酒な

らびに薬物乱用も課題の一つである。未成年の飲酒に対する関心については、若干の改善傾向にある一方で、飲酒の害に関しては、喫煙・薬物の害に比べて認識が甘く、身近にあることから容易に接する状況とのことであった。

薬物乱用経験者は13～14歳で飲酒や喫煙歴があるとの結果も出ていることより、タバコ及び飲酒は薬物乱用の入り口であるとのことであった。その誘導を絶てば、そこから派生する色々なことが阻止できると考えられている。思春期での指導が大切であり、早い段階での学校における飲酒防止教育が一次予防であることから、学校教育による啓発が重要な位置を占めている。

そうした健康課題に対し、今までは、「知識中心型」と言われる「知識があれば健康づくりができる」という考え方にに基づき、正しい知識を伝えることに比重がおかれている。しかし、思春期特有の「友人との人間関係」を重視する時期においては、友人関係が壊れることを恐れ、安易に相手の誘いにのってしまいがちになる。そのように、知識を獲得するだけで自分の生活習慣を変えたり、意思を継続させたりするなどの行動に直接結びつく事は難しいとの事であった。

ライフスキル（心理社会的能力）とは「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な心理社会能力」（WHO）と定義されている。この教育によって青年期などに出会う様々な誘惑や危険行動に対処する力を学ばせ、心の免疫をつけさせる効果を生むと考えられている。このライフスキルを獲得するためには、①セルフエスティーム（健全な自尊心）形成スキル ②意思決定スキル ③目標設定スキル ④ストレス対処スキル ⑤コミュニケーション（対人関係）スキル など5つの要素が関係している。

たばこや酒類の宣伝・広告は、喫煙や飲酒の危険性に対する意識を低下させ、喫煙や飲酒に対する肯定的イメージを形成させ青少年に対して、とりわけ大きな影響を与えてしまう。セルフエスティームやライフスキルの低い青少年は、社会的要因の影響を受け、様々な危険行動を取りやすい。

青少年の危険行動を防止するためには、周囲の人々への働きかけや、法律の整備などを含む社会的環境の整備が不可欠であると思われた。

第46回総会及び研修会 開催のお知らせ

《総会》

日時：平成30年6月3日（日） 午後1時～
場所：千葉県薬剤師会 会議室

《研修会》

「学校環境衛生基準の一部改正について（仮題）」
講師：文部科学省
初等中等教育局健康教育・食育課
健康教育調査官 小出 彰宏 先生

※詳細ご案内につきましては、別途会員宛郵送にてお知らせ致します。